

第3学年 総合的な学習の時間学習指導案

平成24年11月3日(土) 5校時

3年1組 30名 授業者 前田由子
2組 30名 授業者 前大弘子
3組 30名 授業者 稲嶺聖英
4組 30名 授業者 脇田幸有

1 単元名 「新聞からうるま市をみつけよう」

2 単元目標

新聞の地域版から自分たちの住んでいるうるま市について調べることで、地域の伝統行事や出来事および生活の様子について興味を持ち、調べようとする。

3 教材について

(1) 教材観

本授業は、社会科の単元「わたしたちの市の様子」の関連教材として扱っている。1学期に社会科でうるま市の土地活用や特産品について学習し、2学期に地域の伝統行事について簡単に学習をしている。本時のように新聞を使って調べる学習は初めてである。

(2) 児童観

男女仲が良く、素直で明るい。うるま市出身の保護者が多い。児童の半数が地域のエイサーや、うるま市祭りなどに参加している。身近な公共施設は公民館が中心で、海中道路のあやはし館などうるま市東部にある離島は身近に感じている。うるま市は広範囲のため、自分たちの身近な校区の様子はよく分かるが、他地域の位置関係や地域名はあまりよく分かっていない子が多い。

(3) 指導観

本時では、授業の導入でうるま市の地域名について確認させることからスタートする。その後、新聞の地方欄にある「うるま市」の記事を見付けることで、自分たちの住んでいるうるま市は、どんな地域かどんな出来事があるか気づかせたい。また、それを画用紙に貼ることで地域の情報マップとして活用させると同時に、新聞に対して親しみが持てるようにしたい。

「うるま市実践9項目」との関わりでは、特に以下の項目を意識して取り組む。

ねらいを明示した授業の実施

本時のねらいを板書し、「うるま市」の記事の見つけ方を授業の導入で教えることで、ねらい達成への方法を知らせ、意欲を持たせる。

教材・教具・説明の工夫

新聞2紙をあらかじめ地方欄のみに限定して児童一人一人に配布することで、集中して記事を探せるようにする。

言語環境の整備と言語活動の充実

個人学習でうるま市の記事を新聞で見つける。その後、うるま市の地図を貼った画用紙に切り取った記事をどの地域の記事として貼るのか、話し合いながら作業をするグループ学習を展開することで言語環境を工夫する。

4 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) ねらい

新聞の地域版を調べることで、自分たちの地域により親しみを持つ。

(2) 授業仮説

自分たちの住んでいるうるま市について、新聞の地方欄の記事を見付けたりその記事を画用紙に貼り地域の情報マップを作成したりすることで、新聞を通して自分たちの住んでいるまちについてより親しみをもつことができるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点 (実践 9 項目)	評価
導入 7分	1 わたしたちの町の地域名を確認する。 2 今日の課題と進め方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">新聞からうるま市をみつけよう</div>	・事前に地域パズルを作成する学習をする。 言語環境の整備と言語活動の充実 ・沖縄タイムスと琉球新報の地方欄を一人2部ずつ用意する。 教材・教具・説明の工夫 ・「うるま市」の記事の見つけ方や、記事の範囲のとらえ方を説明する。 ねらいを明示した授業の実施	・今日の課題と進め方を確認できたか。
展開 25分	3 新聞からうるま市の記事を探して切り取る。(個人学習) 4 切り取った記事を地域別に画用紙に貼る。(グループ学習)	・机間指導をしながら「うるま市」の記事の見つけ方や、記事の範囲のとらえ方を確認する。 ・地域名の入った地図を貼った画用紙を配布する。 教材・教具・説明の工夫	・新聞からうるま市の記事を探して切り取ることができたか。 ・グループで話し合い、切り取った記事を地域別に画用紙に貼ることができたか
まとめ 13分	5 新聞から記事を見つけたことやグループで話し合ったことから、「今日のなるほど」感想を書いて発表する。	・ワークシートを準備する。 自己評価の実施	・活動を振り返ることができたか。

(4) 評価

新聞の地域版を調べることで、自分たちの地域により親しみを持つことができたか。

(ワークシート)